

技術士第一次試験に合格して



川中 桂一

勤務先:

北電総合設計株式会社
土木部 京極技術室
〒060-0031 札幌市中央区
北1条東3丁目1番地1
TEL 011-222-4420
FAX 011-222-4426

E-mail: kei-kawanaka@hokuss.co.jp

専門: 環境部門

1. 自己紹介

私は生まれは旭川ですが、高校を卒業するまではずっと札幌で過ごしました。小・中は公園や校内(?)を元気に走りまわっていたな、という記憶がのこっています。

高校のときに、「こんなこと勉強する必要あるんだろうか…」「何かの役に立つことじゃなければやる必要ないんじゃないか?」という思春期の悩みをかかえ、勉強に身が入らない時期がありました。そして、「覚えるだけムダだ」という葛藤と戦いながら受験に臨みました。そういうこともあり、また化学と生物が得意だったこともあって、大学では応用化学科を志望しました。社会に出てから、または日常生活でも使えるような知識をそこで身につけたいと考えました。

入学してからしばらくは、基礎の化学と、各分野の中間の生物化学、物理化学、化学工学などの応用的な科目の講義が多かったように思います。3年になると化学実験も始まりました。また、途中でコースが分かれるようになっていたので、私は生命環境科学コースを選び、そこで地球環境問題や災害環境などについて学ぶことができました。環境問題にかかわる仕事をしたいと思うようになったのはこの頃からです。

入社後は主に環境分析の業務に携わっております。当時は、土対法が施行されてまだ1ヶ月ほどし

か経っておらず、分析の設備も新規に導入したばかりという状況でしたので、やることが多く大変でした。現在は他社や社内の方たちの協力もあり、やっと少し軌道に乗ったかなというところです。

2. 受験体験

技術士一次試験は、社内では建設か環境で受験する人が多かったのですが、私も例にもれず環境部門で何度か受験していましたので、それをもとに対策を練りました。

まず、基礎と適正については、時間さえかければ大抵の問題は解けるように感じましたので、簡単に解けるものを優先して解くようにしました。勉強するときは時間を計って解くと良いです。

専門は、出題範囲が広いのか見たことのない言葉が出てきていましたので、環境・循環型社会白書を縦読みし、わからない単語があればじっくり読む、あるいは過去問題の解説や環境新聞などをひたすら読む、という方法で知識を増やしました。

ただ、今回は他の資格勉強の時と違い、過去問にあまり時間を割かなかったこともあって、受かる自信は持っていませんでした。結果的に合格できたのは、読むという学習が私に適した(無理なく継続できるという意味で)方法だ、ということも大きかったのでしょうか。

3. 今後に向けて

これからは、環境問題全般に関わっていきたいのですが、なかなか希望通りには行かないということもあります。まずは京極の現場の中で、環境監視、環境保全、環境影響評価など他の環境業務に幅を広げたり、あるいは海外の視察ツアーなど社外の仕組みを利用したりする必要があるのかもしれない。

いずれにせよ、自分でも情報を集め、技術士の資格取得を最終目標とせずに日々研鑽することが必要です。そして、低酸素社会へ向かう中で自分が何をすべきなのか、どう貢献できるのかを考えながら、環境技術者になる道を模索したいと思います。



飯島勢津子

勤務先：

国立大学法人
帯広畜産大学
産学官連携研究員
〒080-8555 帯広市稲田町
西2線11番地

TEL 0155-47-5558

E-mail: isetsu@obihiro.ac.jp

専門：生物工学部門

1. 自己紹介

私は新潟で生まれ、茨城、岩手を経て、高校を卒業するまで、東京で過ごしました。茨城では木イチゴを摘み、岩手では近所の小川から蛍がいなくなるという悲しい経験をし、東京では都会の公園でたくましく実をつける椎の木や、小さな庭の小さな山椒の木を這うアゲハ蝶の幼虫などを見て育ちました。自然に恵まれた土地で暮らしたいと思い、北海道の大学に進学しました。

大学では登山に熱中し、地道に努力する楽しさや人との出会い、動植物の名前と特徴など、様々なことを学びました。

卒業論文の研究で化学分析の楽しさを知り、卒業後はコンサルタント会社で環境分析と水質調査に携わっていましたが、現在は転職し、地域と農業の発展を後押しするための研究および補助に携わっています。

2. 受験に至るまで

学生の頃は「技術士」という名前すら聞いたこともなく、入社して始めて知りました。積極的に資格を取るよう勧められていましたが、業務の多忙さを理由にして、真剣に取り組まませんでした。

その後転職を機に、推薦されていた資格を調べ直しました。その時、改めて読んだ技術士の理念に感銘を受け、私もこんな人材になろうと思い、必ず今年合格すると決意しました。

3. 受験体験

業務や家事、趣味の時間を守りながら合格したいと考えていたので、早くから手をつけました。すでに一次試験を合格していた知人がいたので、どのくらい時間を割いたか尋ね、「二カ月、一日二時間」という返答を目安に、一カ月かけて勉強スケジュールと参考書を決め、その後、四カ月かけて一日一時間集中して勉強を進めることにしました。

基礎科目と適性科目の対策には、知人からもらったプリントと過去問を解き、できなかった問題のみを繰り返し解きました。専門科目の対策には、三年分の過去問を解きながら、わからない語句やメカニズムを調べて書きこむと同時に、調べている途中で目に入った語句もチェックし、独自の教科書を作りました。また、これまで読書に割いていた出勤前や寝る前の細切れの時間を、推奨されていた参考図書を読むことに置き換えました。この本は、身近にあるバイオ技術を専門家がわかりやすく解説したもので、各専門家の熱意を感じた上に、読み物としても面白かったので好奇心を掻き立てられ、モチベーションの維持に非常に役立ちました。

長い受験準備期間を振り返ると、勉強時間の確保、無理のないスケジュール調整(これはPDCAサイクルの実践演習になりました)、モチベーションの維持など、知識以外のことも多く学ぶことができた、充実した時間でした。合格の通知を受けた時は、自分のやり方が間違っていなかったことに対する安堵感と、受験を通じて人間的に一步成長できたという満足感が広がりました。

4. 今後に向けて

一次試験合格者歓迎会に出席させて頂いた際、先輩方が目を輝かせながら技術士会についてお話しされる様子がとても印象的でした。お話を伺っているだけで、元気とやる気を頂きました。少しでも早くその輪に加われるよう、一日一日を大切に充実した四年間を過ごし、二次試験合格に繋がりたいと思っています。



佐藤 俊義

勤務先：

北海道造園設計株式会社
〒060-0807 札幌市北区
北7条西2丁目
山京ビル 408

TEL 011-758-2261

FAX 011-709-5341

E-mail: zoen@hkg.odn.ne.jp

専門：建設部門

1. 自己紹介

1962年（昭和37年）生まれの45歳。出身地は北海道東部、オホーツク海に程近い北見市です。

大学に通うため、18歳からは札幌市民となりましたが、道都としての華やかな暮らし、道東に比べ穏やかな気候にもすっかりなじみ、卒業後も札幌で就職先を探しました。

大学では建築を学びましたが、講義で知ったランドスケープの世界に興味を持ち、卒業後は北国のランドスケープコンサルタントとしては老舗、北海道造園設計（1968年設立）に入社し、以来23年に渡って道内の公園や緑地の設計に携わってきました。

入社当時は、身近な都市公園のほか、バブル景気やリゾートブームを背景に、各地に集客を目的とした観光施設の設計も手掛けてきました。

バブル崩壊後は、これまでの“つくる技術”から“つかう技術”へと社会のニーズが変わり、公園ストックの活用計画や、市民参加型による公園づくりなども行ってきました。

近年では、少子高齢化への対応、防犯や防災の対策、都市景観への寄与、生物多様性の確保など、まだまだ学ぶことも多く、今だ新人と思っていましたが、気が付けば40代を超え、部下を率いる立場になっていました。

2. 受験体験

1) 受験に至まで

「いつか技術士になっているさ」、「いつか試験を受けるよ」、「今度はいつかなあ〜、願書くらい書こうかな」、「いつか…」と、社会人お決まりの先送り思考で、すでに40歳も近づいてきました。

次第に同業他社、それも同世代から技術士合格のうわさが耳に入りはじめ、「もう、いつかとは言っていられない」と一念発起し、試験を受ける覚悟を決めました。

2) 息子と一緒に受験対策

私の技術士受験の年は、長男の大学受験、次男の高校受験と重なり、妻からは「受験三兄弟」と呼ばれていました（私は父親ですけど、まあいいか）。

休日の日も、平日家に帰った時も、子供たちが勉強をしているわけですから、私だけナイトー中継を見ながらビールを飲むわけにもいかず、次第に机に向かう時間が多くなりました。

3) 勉強法は机に向かうこと

とりあえず、机に向かうと雑誌を見たり、新聞を読んだりしてしまいがちですが、それはせいぜい一時間程度で飽きてしまいます。そして、次に読む物がなくなった頃、目の前に置いてある参考書に手が伸びています。しぶしぶではなく自然に。

4) 知ることはおもしろい

参考書を読むと、日常の業務とかけ離れているわけではないので、ついつい読み込んでしまい、気が付けば深夜ということもありました。また、謎が解けた時には「なるほどねえ〜」などと言いながら、楽しんでいたこともありました。

3. 今後に向けて

一次試験は“知る楽しみ”で合格できましたが、二次はその知識を生かして“組み立てる楽しみ”にできるかが私にとっては重要なポイントになります。

受験のためだけの勉強にはしたくはないので。



竹村 誠

勤務先：

星和電機株式会社
北海道支社 技術課
〒060-0061 札幌市中央区
南1条西5丁目
愛生館ビル

TEL 011-222-5321

FAX 011-207-7180

E-mail：TAKEMURA_makoto@seiwa.co.jp

専門：電気電子部門

1. 自己紹介

このたびは、技術士第一次試験に合格された方々おめでとうございます。

私が社会と言う名の航海に就航して、早15年が過ぎようとしているところでありますが就航後、6年程CE（カスタマエンジニア：Customer Engineer）として、CS（Customer Satisfaction）＝顧客満足の向上を達成するために、何をどのように提供していくのかを考え、それを達成するための仕組みを作り上げる活動を行ってきました。

現在の会社は、情報通信機器を製造するメーカーで、私が担当する業務内容は、技術営業とし商品の企画・設計・サービス、施工、維持管理などを行っています。

座右の名は「人に言われて動くな」をモットーに日々新技術に目を向け、広く浅く深く市場動向を把握し、顧客への情報提供・提案活動を行っています。

2. 受験体験

自己修練として、資格取得を念頭におき社会市場に於いて自分の存在価値をアピールするためには、国家資格を保持し、社会に貢献できる人材として活躍しなければ意味がないと自負していることから、各種資格取得を心掛けてきました。

今回、技術士を受験するきっかけとなったのは、

自分の知識・経験がどの位通用するかも含め専門技術者にとって、技術資格の最も権威である国家資格の「技術士」を1度受験してみようと非常に安易な考えのもとに受験、幸いにも一次試験に合格することができ内心胸を撫で下ろし、高揚したところであります。受験については、今回が初めてであり出題される傾向と対策が見えず「基礎・専門」は、格闘した次第です。「適性」では、技術士倫理要綱における技術者として行動倫理について再認識したところでもあります。

「受験勉強」と言う言葉がありますが試験を受ける為の付け焼き勉強は、瞬間的な対応力は素晴らしい結果となるが継続した固有の知識として自らの言葉で論理的に解釈を行い不特定多数の方へ理解できよう説明できる能力は継続した努力のたまものであると思っています。今後も技術者としてのさらなるスキルアップを心掛け「日々勉強、満足するな」を自己に命じ、一技術者として修練していく所存です。

3. 今後に向けて

現時点では、第一次試験に合格したに過ぎないため、専門分野における実務経験を積み、第二次試験合格に向け真の「技術士」となる様、努めたいと思います。

技術者として、科学技術の高度化、総合化・複合化等の社会環境が変化する状況において、高い職業倫理を備え、経済社会のニーズに対応する能力の向上に努め、活躍できるよう自己鍛錬していく必要があると本一次試験を受験して思ったところあります。

思うだけでは実現できないため、実現可能な近未来へ向け日々進歩する技術に順応できるよう自己の専門分野だけにとらわれず勉強し、理解するよう努めていきたいと考えています。

手前どもの話ですが弊社の経営理念として「(前文略…)新技術に挑戦し、社会に貢献する(自己革新)」を理念に社会に貢献できるような人材の一人として努力していく所存です。